



目黒哲也 通信

●発行人 目黒哲也

所属委員会 社会厚生委員会 副委員長 議会広報編集特別委員会
南魚沼地域広域計画協議会 南魚沼市都市計画審議会

クマ出没警戒警報発令!

市内で人身事故も発生しました。
クマの出没が相次いでいますので
最大限の注意をお願いします。

●連絡先 目黒哲也後援会事務所

〒949-6612 新潟県南魚沼市東泉田1076-1 TEL 025-773-6253
携帯 090-4011-7563 E-mail kinseikan.tetsuya430623@gmail.com

目黒哲也通信のバックナンバーを希望される方は、メールあるいは電話にてお気軽にご連絡ください

ごあいさつ

皆様には、日頃から市政へのご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。内閣府が発表した国内総生産（GDP）の速報値は、リーマン・ショック時を超える戦後最大の落ち込みとの発表がされました。またGDPの過半を占める個人消費は、外食や旅行などのサービス消費を中心に急減し、これも過去最悪の落ち込みとなりました。加えてインバウンド（訪日客）は激減し、自動車関連の設備投資の減少も大きく、内需・外需ともに総崩れの厳しい状況におかれ、当市の経済・生活にも大きな打撃を及ぼしました。現在においても感染症や世界経済の先行き不透明感は続き、経済の低迷は長引く恐れがあると思われます。そんな状況下で、市においても経済支援をさらに推し進めると共に、先を見据えてWithコロナ・Afterコロナに適応した施策を打っていく必要があると考えます。今後の経済支援策については、情勢の変化に目を配りながら、常に緊張感を持って南魚沼の地域経済を一刻も早く回復させ、さらなる福祉向上と発展に邁進していく決意であります。皆様からも、どうかご意見やご要望等々小さいことでもご遠慮なく、いつでもお寄せくださいますようお願い申し上げます。皆様の思いやお声は市政に反映させ、実現できるよう粉骨碎身取り組んでまいります。今後ともご理解とご協力をお願い申し上げます。

9月議会において下記の一般質問を行い、皆様のお声を市政にお届けいたしました。質問と答弁は以下の通りです。（一部抜粋）

一般質問①

「Withコロナ・Afterコロナの産業振興策について」
を質す

目黒 市長には、「住もう喜びを感じるまち」というコンセプトのもと、全国に向け発信し続けてきた雪国のイメージアップ戦略及び「若者が帰ってこられる、住み続けられるふるさと、南魚沼」のこれまでの実績があるが、これらをもとに、今後の雪の利活用による産業振興策について、次の3つの視点で伺う。

- ① 雪を活用したアクティビティ施策はいかに
- ② 雪室の活用による地域産品のブランド化施策はいかに
- ③ 雪冷熱エネルギーの利活用施策はいかに



① 雪を活用したアクティビティ施策はいかに

市長 スキー・スノーボードを中心とした冬の観光事業は市の主要産業の柱の一つである。雪を使ったオリンピックの夏さ対策等の計画も、新型コロナウイルスの影響でオリンピックは延期になり残念だったが、ぜひとも来年の夏、必ずや雪の効力や魅力を世界中に発信ができる機会に恵まれると思っている。その結果、当地における雪を活用したアクティビティは各段にまた注目度も増し、上がっていくものと考えている。

目黒 雪の中の“楽しみ”を創造していくことが大事である。次の3つの視点で考えてみる。1つ目として「スポーツ」、2つ目として「体験」、3つ目として「健康づくり」。まず「スポーツ」であるが、現在、当市で展開している“自転車を活用したまちづくり”の中で、ストライダーが非常に子どもたちを含めて人気が高まってきている。そこで雪の上をすべる自転車「ファットバイク」を展開していくのはどうか。

市長 現在、保育園ではストライダーが人気になっている。これにアタッチメントをつけなければ自転車のそりにできるので、例えば雪の山を作れば、道の駅をはじめ色々なところで展開は可能である。

目黒 観光面で考えれば、スキー場での展開が効果的である。しかし民間のスキー場だと、さまざまなお課題や問題もあるので、すぐに活用できない部分もあると思う。そこで、市営である八海山麓スキー場を取り入れてはどうか。サイクリングターミナルとの名称にもマッチするし、夏は自転

車のダウンヒルを行っているので、1年を通して自転車を楽しめるというコンセプトは良いと思うが。

市長 地域問題となっている、厳しい状況にあるスキー場の中での一つの楽しみとして設置することは十分できるこ

とであると思う。目黒 2つ目として、かまくらレストランや雪の中でのキャンプ・グランピング等の体験は、食や日本酒と合わせて楽しいと思うが。

市長 今、サウナ人気が凄いようである。またワーケーションでの要望でもサウナを希望する方が多いと聞いている。通常であると、サウナから出ると冷水を浴びるが、冷水の代わりに雪の中に転がってみるとか、新雪の中に飛び込んでみると、サウナと合わせた雪の魅力があると思う。

目黒 河川敷や錢淵公園、または五十沢キャンプ場、五日町スキー場、旧浦佐スキー場等を利用してグランピングやキャンプ、かまくらレストランを。さらに河川敷でのクロスカントリーやスノーシューによるウォーキング等も手軽にスポーツが楽しめるし、そこにサウナも良いと思うが。

市長 以前から構想しているのが、水量が安定する冬に魚野川での雪見舟下りである。河川事務所と話をしているが、一步も前に出す実現できていないが。

目黒 3点目の健康づくりであるが、今年度はじめた健康ポイント制度に、除雪や雪下ろし等を健康ポイントとして付与し、冬期間における市民の健康づくりにつなげるの

はどうか。市長 除雪や雪下ろしも運動との認識へと発想を転換し、運動もボランティアに対してもポイントを付けて、楽しみも含めた地域包括連携ケアシステムを将来的に考えている。

目黒 新型コロナウイルスで観光が低迷している今こそ、この地域のスキー場をはじめ観光関係の民間の方々と、そして行政と、本当の意味の信頼関係と連携の下で観光だけでなく、市民の健康づくりという点でも新たな展開をしていくチャンスである。

市長 健康増進という視点でスキー場と連携してやっていく方向が、これから新しい目標すべき姿ではないかと思う。その方向で進めていく先に、独自の特色的ある南魚沼市の地域包括連携ケアシステムのやり方が生まれてくると思う。

目黒 健康の視点も加えることで観光への拡がりも増していくと思う。加えてガイドの役割も重要になってくるが。

市長 昔からヨーロッパやオーストリアはガイドが充実している。アルプスの山岳の案内人（アルビニスト）は、社会的な地位が高い。そういう点で日本は制度や社会的認識が遅れているのではないか。観光を標榜する地域であれ

速報 南魚沼市追加支援決定!

フレミアム率
100%!

① 南魚沼市ふるさと応援プレミアム付旅行券 2億円

- ・発行部数 10,000円旅行券×20,000セット
- ・旅 行 券 10,000円（宿泊分7,000円+地域クーポン3,000円）
- ・販売価格 5,000円
- ・販売期間 令和2年11月1日～令和3年3月15日
※20,000セットに達し次第に終了
- ・使用期間 令和2年12月1日～令和3年3月31日

② 新型コロナウイルス感染症 検査費用補助金 800万円
(1,000検体分)

除雪関係・運輸関係・県外者と接触の多い事業所等々の従事者に対して、自主PCR検査を実施した事業所に1検体あたり上限8,000円を補助する。事前に申込みが必要になります。

・問合せ 南魚沼市役所 都市計画課 Tel 025-773-6662

右のQRコードをスマートフォンなどで読み取ると、一般質問の録画映像がご覧になれます。



ば、ガイドを職業としても成り立たせられるのかが課題である。

目黒 ガイドの育成や制度の確立は時間や課題が多いと考えられるので、音声セルフガイドの導入も一考であると思う。

② 雪室の活用による地域産品のブランド化施策はいかに

市長 令和元年度ふるさと納税の合計額は、16億9,100万円、そのうち雪室製品を返礼品に選んだ寄附額が約2億9,400万円と、全体に占める割合は約17%を超えており、この伸びに注目をしている。今年度のふるさと納税は、現段階で前年比200%を超える伸びをしており、恐らくは、この雪室の関係するところが非常に重きを置かれているのではないかと考えている。

目黒 雪室を活用した製品は食味も上がり、製品に付加価値が付く。そこで雪室製品を拡大していくために民間への支援はできないか。

市長 南魚沼市は全国的に見ても雪室を使った製品づくりの取り組みが非常に盛んな地域として、今時点で恐らく国内では1番か2番だと思う。食分野のブランド化を進める際に、他地域との差別化を図るために大きな利点にできると考えているので、さらに伸ばしていきたい。またこの度、日本郵政の物流サービスとローソンが連携したJPローソンが関東圏に10数店舗の直営店があるが、そこでの販売ができるという新たな道がついた。

目黒 食のブランド化を図るために、当市の雪室製品には統一的なロゴマークを作製し、全製品につけたらどうか。

市長 良いということは分かっているが、まずは雪室の効能や効果等に関して、さまざまな学術的見地に取り組んでいくべきだと考える。また現在、民間企業による大規模な雪室建設が進められようとしており、さらに地域のブランド力が高まると期待をしている。

目黒 食ばかりではなく、新型コロナウイルス感染症のワクチンも含めて、薬剤を雪室の中に入れて保冷保管する効果等をはじめ、広い分野でも合わせて研究し、推進や今後の産業誘致につなげてほしい。

③ 雪冷熱エネルギーの利活用施策はいかに

市長 東京2020オリンピックにおいて、雪のクーラーによるテント内の冷房やスノーパックの配付等、雪冷熱エネルギーの利活用に関するPRを計画していたが、実施できないという状況で誠に残念至極である。

しかしながら令和3年度の実施に向けて、連携先であるさいたま市・江戸川区及びオリンピック組織委員会と話し合いを進めており、この協議が、年末に向けて本格化する予定になっている。

目黒 先に取り上げた雪室倉庫群に加えて、サテライトオフィスやデーターセンター等の雪冷熱オフィス群等、また木材等も加えたバイオマスエネルギーを1か所に集積した産業団地構想を将来的に展開してはどうか。

市長 雪室を産業とした雪室倉庫群は、私たちが目指すべき方向であり、上沼道⁸の全線開通も雪室産業化の地域の将来像でもあると思う。そういう意味でも学術的な見地が非常に大事である。これからは、市内の施設での利活用を進める段階に進まなければ、今やっている事業の意味がない。

目黒 体育施設は、市民の方が非常に多く接する機会があり、そこに雪冷房システムを取り入れることで、市民への認知度も広がる。加えて合宿の誘致や、市外の方が利用することで大きなPRにもなるはず。空いている第二上田小学校の体育馆に雪冷房システムを取り入れて、室内運動場として利活用することはどうか。

市長 公共施設への雪冷熱エネルギーの導入は今後、軌道に乗せていかなければならないと考えている。夏の災害時に避難所としても雪冷熱は効果的である。

目黒 建設費用に関しては、企業版ふるさと納税やクラウドファンディング等を活用する手段もあると考える。

市長 真っ先に取り組むべきは公共施設での切り替え、または新設ではあるが、なかなか今は、望める状況ではないがその方向性を持ってこれからやっていく。雪冷熱だけで

はなくて、木材の利用を義務づける方針や転換にも大きな道筋をつけていかなければならないと考えている。



※上越魚沼地域振興快速道路

上越市の北陸自動車道 上越ICから関越自動車道 六日町ICを経由して国道17号六日町バイパス 余川IC（仮称）に至る、総延長約60kmの地域高規格道路

一般質問② 「今後の観光振興策について」を質す

目黒 新型コロナウイルス感染症によって、生活においては「新しい生活様式」へと変わってきたように、崩壊してしまった観光の振興策についても、これまでの戦略を転換する必要があると思うが。

市長 当市の観光客数は、前年度比で75.8%減と大きく落ち込んでおり、新型コロナウイルス以降はさらに落ち込み、回復の兆しがない。今後、数年間はインバウンド誘客が難しいとも言われている中、内需啓発型の観光をきちんとやっていかなければならない。要するに日本人が日本人として喜べるもの。それが最終的には世界の目から見て、自分たちが誇りを持てないものを、人に対して誇りあるものだと言えないわけで、そこにもう一度立ち返って頑張る必要が出てきた。

目黒 新型コロナウイルス後はどうなるのか、新型コロナウイルスが収まるまでどのようにしていくか、なかなか答えは誰もが見えない状況の中である。しかし進んでいかなければ産業は衰退してしまってしまう。そこで次の3つの視点への取り組みが必要と考える。

1つ目として、尖った観光施策が必要ではないか。2つ目として、感染予防対策を徹底している安心な観光地施策が必要ではないか。3つ目として、人材づくりと人材ネットワークづくりが必要ではないか。

まず1つ目として、温泉・食・スポーツ・健康医療をそれぞれ組み合わせた尖ったプロモーションを仕掛けていくことはどうか。

市長 当市は、湯治場として栄えた歴史がある。その温泉と健友館的な健診施設を組み合わせた健康医療観光。当然、そこには食も大事である。今までと発想を変えた視点で打ち出すことを考えることがあっていいのではないか。

目黒 国が定める認定温泉利用型健康増進複合施設へと整備することで、市民の健康増進と合わせて観光にもつながっていくものがあるので、将来的には期待する。

市長 温泉は、医療のまちづくり展開の中でも非常に関心が高い。

目黒 雪室の効果と同様に、温泉の効能や効果についても

学術的な研究をお願いしたい。

市長 きちんと裏付けられたものが、やはりどうしても必要だろうと思う。

目黒 2つ目として、豊かな自然環境と感染予防対策をしているという環境面の良さをPRしていくことが大事である。早い段階で南魚沼市観光協会が展開している感染予防対策の認定宿には、オリジナルのロゴマークが入った木製の認定板が目立つところに置いてある。これを宿ばかりではなく飲食店にも広げ、地域全体で感染予防対策を徹底しているイメージは重要であると思うがどうか。

市長 宿については観光協会という組織があり、対策は進んでいるが、飲食店については市内に横断的な組織がないので困っている。しかし早急にやるべきである。

目黒 宿や飲食店に対して感染対策支援も必要では。

商工観光課長 今現在、認定宿は約3割程度で順次説明に回っている。飲食店についての議論はしているが、件数が多いので検討中である。新型コロナ対応の衛生設備を合わせた補助金は先般、県で交付したので、今後は推移を見た中で対応していく。

目黒 観光は人材づくりと人材ネットワークが特に大事である。かつて平成16年の中越地震時、かなり観光被害が広がった際に新潟県で観光振興戦略会議を立ち上げて、民間と県と国を合わせたチームを作って、今後の観光政策を考えた。同じように、今後の観光施策の展開について官民学の戦略会議を立ち上げるのはどうか。

市長 今回のコロナ対策として、過去に例がない商工会・観光協会・農協の経済団体の長を一堂に集めた経済再生会議を立ち上げた。この組織を核としたい。

目黒 市とつながりがある観光専門の教授や研究者がいるので、メンバーに加えることはどうか。また市内の観光関係の民間企業も必要であると思うが。

市長 様々な人が集まり、発想の膨らみも必要であるが、地域のまちづくりになるところを、今までなかったものをきちんと作り上げることが先決である。

目黒 人材育成とネットワークづくりで、現在、大正大学

と結んでいるコンソーシアムは、学生と地域の方々との交流の中で活性化されている。そこでさらにコンソーシアムを結ぶ大学を増やしていく考えはあるか。

市長 コンソーシアムではないが、今年は巣神地区の辻又に専修大学の学生が来て、地域との結びつきでいろいろなことをやったりした。

目黒 各大学とコンソーシアムを結び、12の地域づくり協議会がそれぞれ大学生を受け入れて、各々のテーマを考え、活動することで、地域の新しい発見や人材交流が生まれて、それがきっかけとなり、思い出の地となって観光につながっていくと考えるがどうか。

市長 今そういうことを全部、仕組みを作っていくというところまで至っていない。非常にいいことだと思うが強制めいたことはできない。だんだんとそういうふうに向かっていくということが醸し出せたら最高だなという気がするし、具体化していったら面白いなと思う。

目黒 市長の考える今後の観光施策をまとめると。

市長 まずは本物の観光づくり。本物というのは手を加え過ぎないことだと思う。我々は、今ある、この自然と文化性、こういった素地があるものを、もう一度見つめ直してみると必要である。雪国に暮らし、雪国の文化があって、雪の恵みの食材がある。

またウインタースポーツも、もう一度プラスアップすること。やもすると四季観光という言葉に逃げたがるが、冬を本当に磨き切ったなら、ここに光るものがあると私は信じている。そういう本心に立ち返るべきだと感じている。



めぐろの国

昭和32年に湧出した六日町温泉は、無色無臭の特徴がない単純温泉・ナトリウム塩化物泉である。しかしながら湯量は現在、約毎分1,980m³と県内屈指の豊富な湯量であり、源泉温度は約58℃と高温であることから、湧出して僅か7年後の昭和39年に国民保養温泉地に認定された量・質共に高い温泉である。現在、新潟県内で国民保養温泉地に認定されている温泉は六日町温泉のほか3か所のみである。さらに市内には13の温泉が湧き出ている。

この恵みである温泉を観光ばかりではなく、市民の健康増進づくりにも活かしていくべきであると考える。

日本のトップブランドとも言える南魚沼産コシヒカリと日本酒に、雪国文化や雪国体験で、南魚沼市内を「めぐって」「たべて」「つかって」、その土地ならではの食や自然・文化をじっくりと楽しみ、魅力を感じてもらう「ONSEN・ガストロノミーツーリズム」を提案したい。

またゆきぐに大和総合病院は、以前より地域医療の先進地

キーワード⑩ 温泉資源を活かし、価値を高める

として全国から注目されている。その中のひとつである「2泊3日のやまとぴあ」は、今から30年弱前に展開した斬新なプランであった。健友館において人間ドック・保健指導・田舎体験・温泉宿泊・郷土食を組み合わせたプランは、全国から人気を博し、大きな実績を残した。このように温泉を予防医療として活かす施策の環境はすでに整っている。現在、全国で国から認可された「温泉利用型健康増進施設」は22か所あり、新潟県はニュー・グリーンピア津南の1か所のみである。

健康診断施設と温泉利用型健康増進複合施設を整えて、身心ともに癒す「メディカルリフレッシュヘルスツーリズム」の展開は、新型コロナウイルス感染症が収束した後は、健康がテーマになると思うので、大きな可能性を秘めていると考える。

またこの施設は、市民の健康増進にもつなげられる。今年からはじめた健康ポイント制度を活用し、市独自の温泉療養保健制度を導入することで、温泉療養や健康増進が期待

できる。

この展開をしていく上で、温泉の効能や効果の学術的な裏付けが必要となるので、まずは研究調査を始めるべきである。

質・量ともに高い、この市内の温泉資源を十分に活かしていくことで価値が生まれ、未来が開けてくる重要なひとつ目の資源であると私は考える。

